

「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」拠点の提案募集について

文部科学省
科学技術・学術政策局

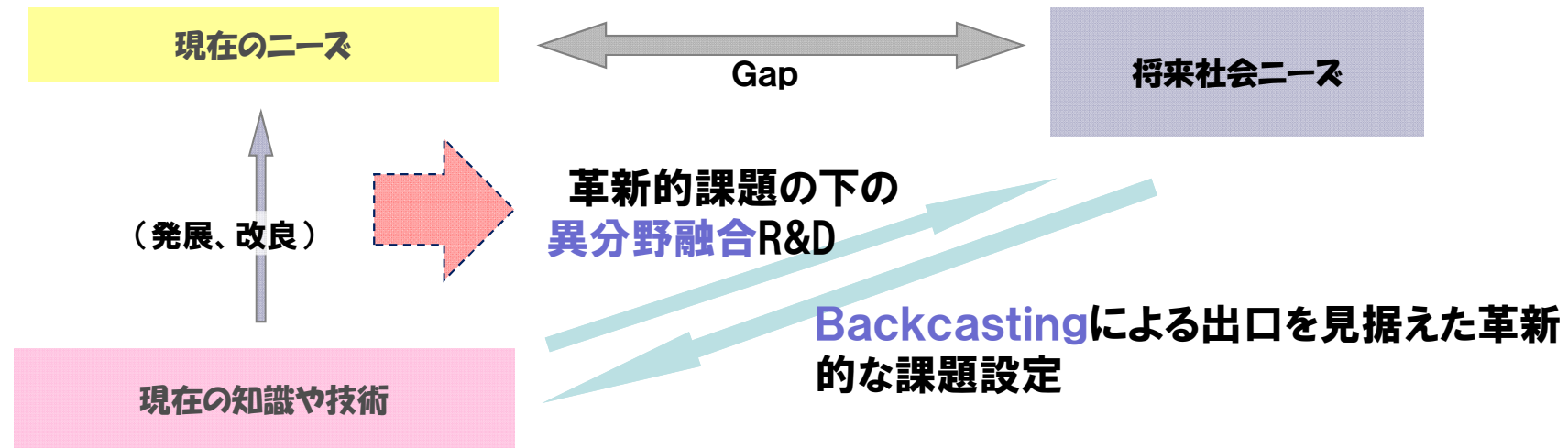


目次

- 1 拠点のコンセプトについて
- 2 拠点構成の決定に向けて
- 3 支援内容について
- 4 申請について
- 5 問い合わせ先

イノベーションとは？

「郵便馬車をいくら連続的に加えても、それによって決して鉄道を得ることはできない」
 (ヨーゼフ・シュンペーター)



将来社会ニーズとは？

10年後の未来、人々の生活や生き方はどのように変わっているのか。(変えたいのか。)

例えば、自分はどう生きていきたいのか。何があったら嬉しいのか。どういうものがよいか。
 また、社会全体はどうあってほしいか。人の生活・生き方や社会をどうよりよく変革したいのか。

革新的イノベーションとは？

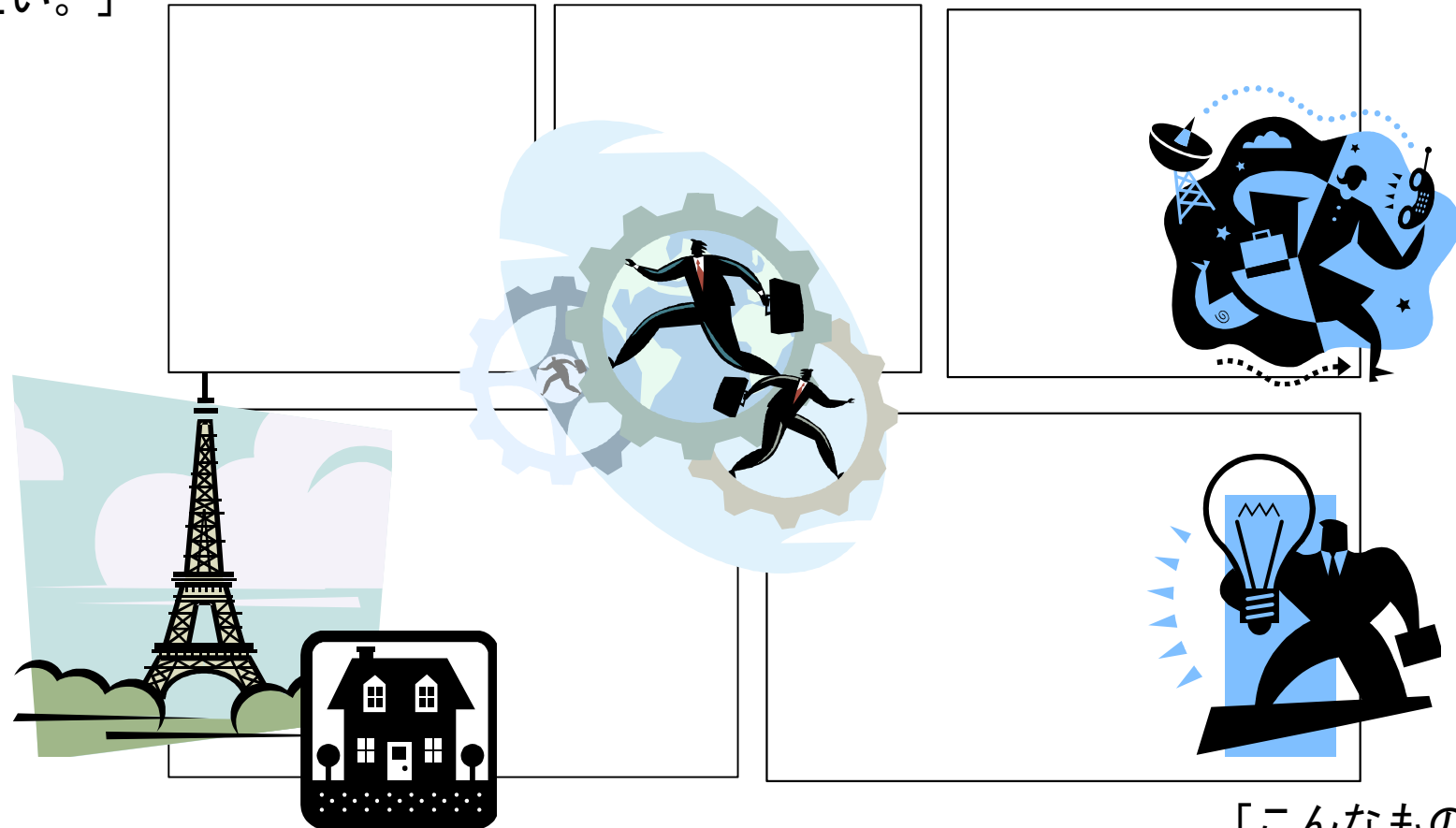
サービスや製品における社会展開（実装）＝イノベーションの最終的な担い手は、産業界。一方、革新的イノベーションの創出においては、なかなか企業だけでは実現できない（投資しにくい）**チャレンジング・ハイリスク研究開発への挑戦**も必要。

desires of people

「こんなものが欲しい。」

「こんな社会に暮らしたい。」

想像力(組み合わせ?展開力?)



「こんなものにも使える。」

同時に多様な人(発想)が集まっている「場」の重要性

大学等を「場」とした既存の組織・分野を超えた異分野融合研究開発の推進。**アンダーワンルーフ (+オールジャパン体制として連携体制も考慮)**で日常的なディスカッションレベルからの交流の推進。
大学等の知を将来社会のためどう活用していくのか。

COI STREAMの「ビジョン」とは？

ビジョン：将来社会のニーズから導き出されるあるべき社会の姿、暮らしの在り方等

ビジョン実現のためのキークエスチョン

少子高齢化先進国としての持続性確保

終身現役、少子化の克服、一人ひとりみんなの可能性が開く社会、人と人の絆を大切にする社会をいかに持続的に築いていけるだろう？

人を変える

豊かな生活環境の構築

個の参画や感性をふまえた新たな形のものづくりなどいかにスマートな社会システムを構築していくことができるだろう？

活気ある持続可能な社会の構築

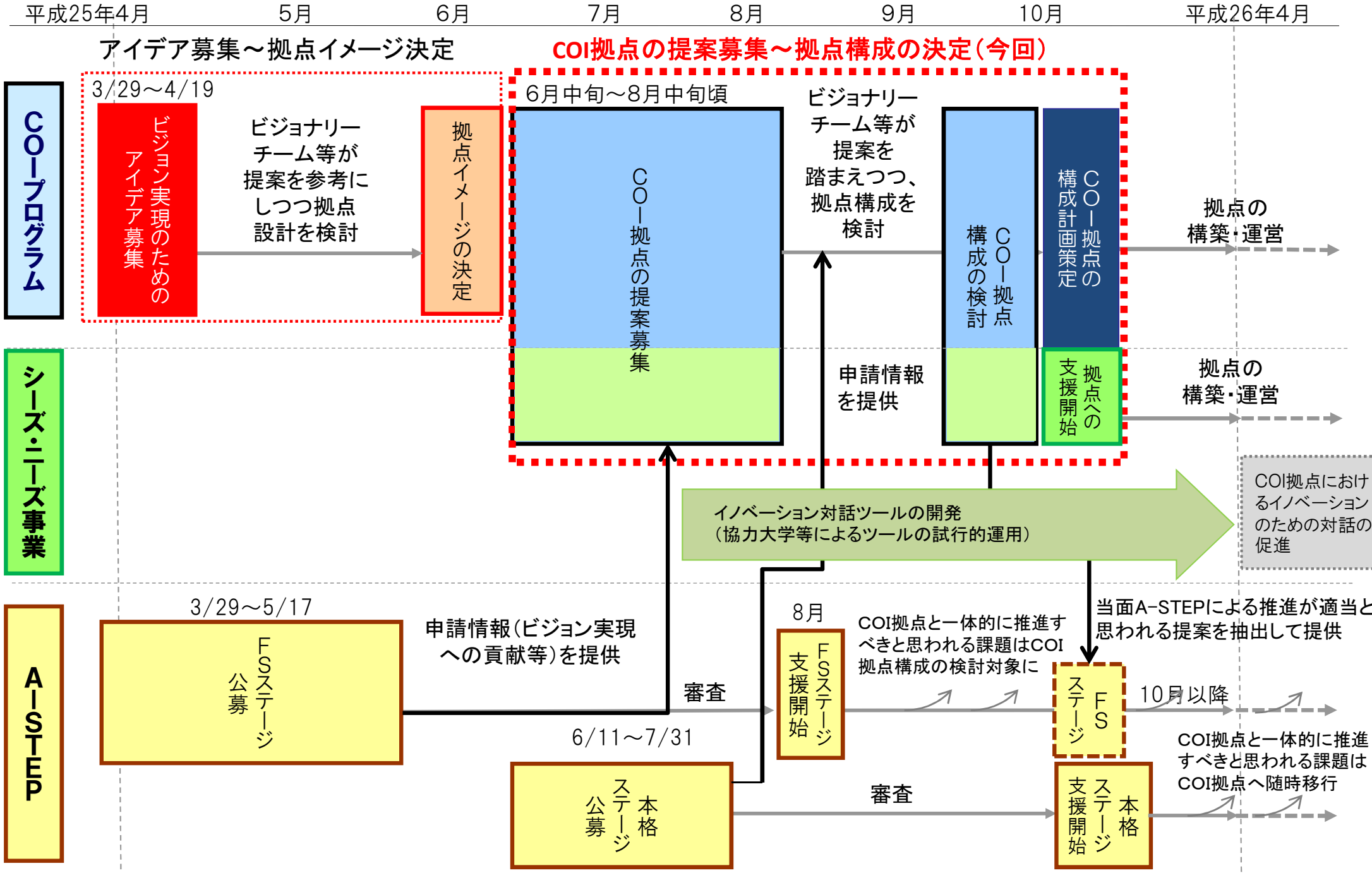
制約なく個人がいきいきと生きていける社会とそれを支える社会システムをいかに好循環で両立していけるだろう？

社会を変える

COI 拠点のコンセプト

- *function(Medical health, Mental health, Motivation, Sports, Food, Ties) = Happiness*
⇒ 健全な心身の実現及び自己実現による安寧
- *function(勘 ing thinking, Active thinking, Serendipity, Six senses)*
⇒ 新しい思考方法が導く革新的な価値創造
- *function(Personalization, Resilience, Sustainability, Functionalization, Flexibility) - Waste*
⇒ 多様・分散・無駄の徹底的排除による持続的新生活システムの実現

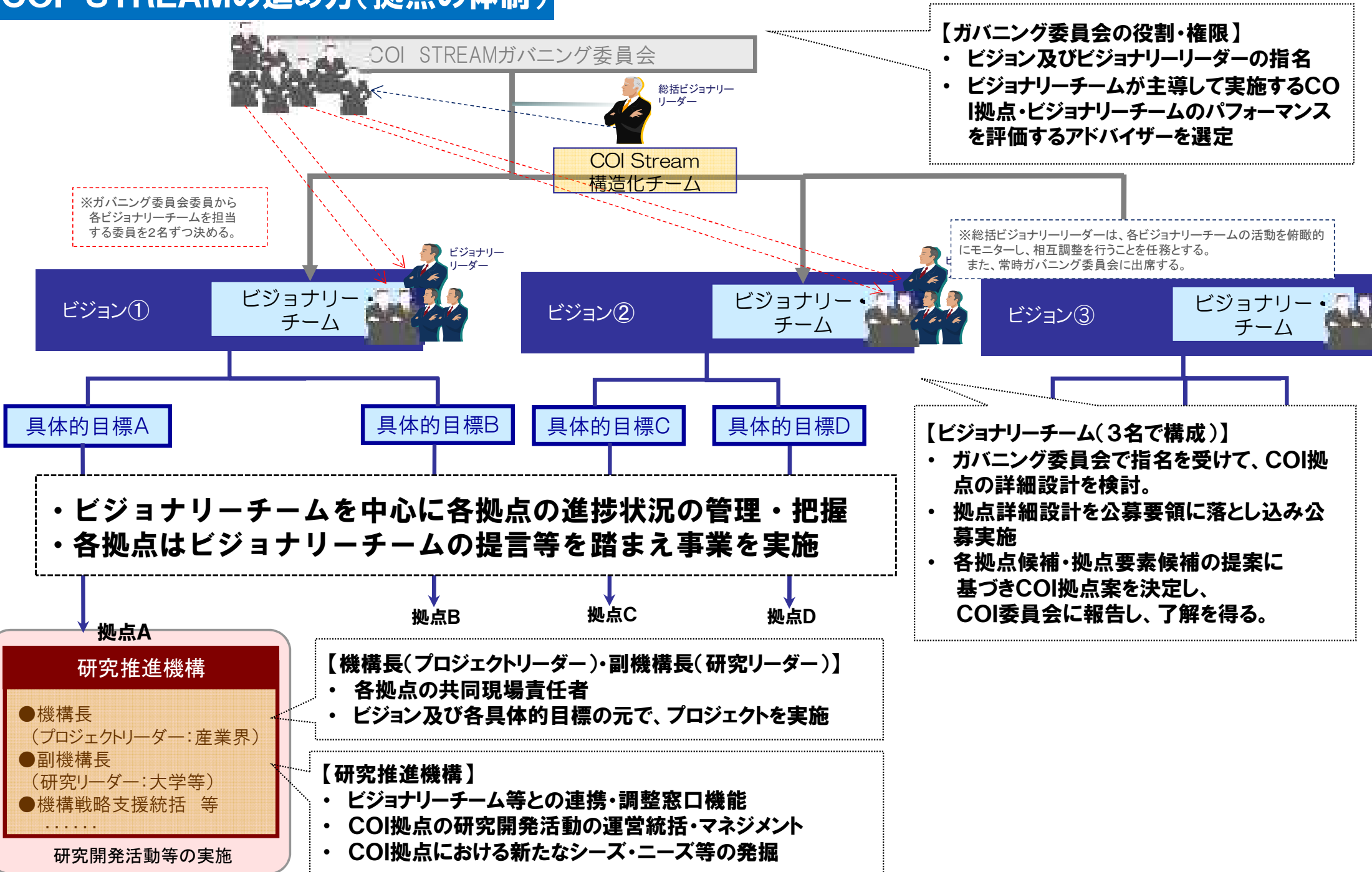
COI STREAMの全体スケジュール



提案の要件

- ビジョンに基づく目標と(個別の研究開発課題ではない)革新的なテーマ
- 異分野融合や(海外を含む)広域連携等を含め、国を挙げて取り組むための産学連携体制
- 経済・社会的インパクトが大きいと見込まれること
- アンダーワンルーフの(所属機関に持ち帰って研究開発を行うこともあり得るが、関係者が常時議論を行い、一体となって研究開発に取り組むことを基本とする)体制を構築する計画
- 社会実装に向けて解決すべき社会制度上の課題等の状況を明確にすること
- 世界の多様な人材を引き付ける魅力ある活動とすること 等

COI STREAMの進め方(拠点の体制)



支援内容

✓ 支援の内容は？

- 拠点当たり年間最大10億円程度の研究開発費(間接経費を含む)を最長9年度(中間評価の結果等を踏まえて研究開発費の調整等を行うことがある)支援。
- 拠点運営を統括するプロジェクトリーダーの裁量で機動的に自由な発想による小規模な研究開発等に予算配分を行うことを可能とすることにより、革新的なイノベーションの創出を推進。

✓ マネジメントの特徴って？

- 拠点運営を統括する研究推進機構(仮称)を各拠点に設置し、ガバニング委員会及びビジョナリーチームの下、高度専門体制により社会実装を意識した活動を推進。
- ガバニング委員会、ビジョナリーチーム等は、所期の目的が達成されるよう、クラウド等ICTを活用したリアルタイム情報共有(活動の見える化と拠点活動の一体性担保)により、拠点活動を把握し、必要な協力・支援、提言等を実施。

「持ち寄り方式」の考え方

✓ 「持ち寄り方式」とは？

研究開発期間全体を通じて参画する企業にもリソースの提供を求めること。「持ち寄り方式」により、基礎研究段階から実用化を目指した産学連携による最適な体制を構築。

✓ リソース提供とは？

ビジョン実現に向けた拠点における研究開発の推進に資する研究活動を参画企業が行った場合の活動。

例)

- ・ COI 拠点に参画する研究者の人件費
- ・ 必要に応じて企業から拠点に拠出した物品費
- ・ ビジョン実現に向けた拠点における研究開発の推進に資する自社内での追加研究等の研究費、人件費
- ・ その研究で利用する施設・設備費等の実質的な貢献

✓ リソースはどの程度必要？

リソースの割合に関するルールはない。ただし、提案時、及び採択後の計画策定時に提案拠点構想について参画企業が予定しているリソースについて記載を求めるとともに、研究開発期間中はその状況についてフォローアップを実施。

✓ 対象となる機関は？

- 1) 企業
- 2) 大学、大学共同利用機関、高等専門学校
- 3) 研究開発独立行政法人
- 4) 都道府県・政令指定都市・国の所管する科学技術を担う法人

✓ 必ず大学と企業で共同提案が必要？

単独での提案、共同での提案、共に可能です。また、1機関から複数の提案も可能です。

ただし、ビジョナリーチームにより産学連携拠点の作り込みが実施され、ビジョン実現に向けた最適な拠点の構成が決定されます。

✓ 申請の方法は？

e-Rad(府省共通研究開発管理システム)による申請になります。詳細は公募要領をご確認いただき、不明な点はお問い合わせください。

平成25年6月11日（火）

平成25年8月12日（月） 12:00

提案募集開始

提案募集締切

たくさんのご提案をお待ちしております。

お問い合わせ先

文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課

e-mail : coi@mext.go.jp

Tel : 03-5253-4111（内線：3812、4020、4265）